埼玉経済

SDGsの相乗効果生む

社会課題解決と成長両立

カネパッケージ（入間市）

梱包材メーカーのカネパッケージ（入間市）のSDGs（持続可能な開発目標）への取り組みが注目を集める。早くからCSR（企業の社会的責任）に取り組む企業として知られるが、SDGsの優位な活用で社会課題の解決と事業成長を両立。環境を意識し海外で行う植林を通した雇用促進のほか、廃棄卵殻を使ったバイオプラスチックの販売代理店業への評価は高く、新市場の獲得も。協賛企業は39社・団体にまで増え、全国へ広がりつつある。（山田浩美）

■植林で貧困解消も

梱包材は森林資源を原料とし、使用後、多くは焼却処分される。金坂良一社長(61)は「クリーンな印象とは程遠く、『箱屋』と呼ばれることも。企業のイメージを変えたかった」と振り返る。

緩衝技術の進化で省資源化を目指しながら、CSR活動として2009年から拠点のあるフィリピンで、マングローブの植林を開始。植林を通じた雇用促進なども行い、貧困問題にも取り組む。

事業を意識したCSRが企業文化として根付いていたことで、SDGsへの取り組みもスムーズだった。自社の各事業活動にSDGsの17ある目標をそれぞれひも付けし、従業員が事業と目標の関係性を考える社内勉強会を定期的に開催。SDGs実践の仕組みを全社的に形成した。

これまでに約1200万本のマングローブを植林し、18年までの10年間でCO_2吸収量は約842㌧。梱包材のダウンサイジング化も果たし、海外拠点も拡大させている。「環境に優しい企業というブランドの確立で顧客や売り上げが拡大。従業員の意識も高くなった」と、SDGsの達成が社会課題の解決と事業成長につながることを強調する。

全従業員参加のSDGsの社内勉強会が定期的に開かれている（カネパッケージ提供）

■バイオプラで新規開拓

昨年からSDGsの4目標を紐づけた、廃棄卵殻を活用したバイオプラスチックの販売代理店業も開始。脱プラの高まりで社内製品に取り入れる企業が増え、受注が増加。PR効果で本業の新規開拓にもつながっている。

素材を開発した食品輸出などを手掛けるサムライトレーディング（桶川市）の桜井裕也社長(50)が、カネパッケージに協力を打診し、普及を目指すプロジェクトを発足。桜井社長は「CSRやSDGsの取り組みでは先駆的な企業。新素材の認知度を高める上で協力が必要だった」と話す。

埼玉りそな産業経済振興財団の調査で、SDGsに対応（または検討中）の県内企業は約1割にとどまる。SDGsをコストや負担と考える企業も少なくない。

金坂社長は「SDGsの達成を目指すことで事業と社会貢献を活性化でき、相乗効果も生まれる。トップの本気度も重要だ」とし、30年のSDGsのゴールに向け、取り組みをさらに深化させていく考えだ。

企業、団体、商店街などの話題を
TEL048・795・9161
✉keizai@saitama-np.co.jp